



令和5年度

太田小だより 最終号

【学校教育目標】

「自他を大切にして主体的に学び、生きる力をはぐくむ児童の育成」
 ～やさしく かしく たくましく みんなで伸び行く太田小～
 ○思いやりのある子 ○すすんで学ぶ子 ○たくましい子

さいたま市立太田小学校
 令和6年3月26日（火）発行
 全校児童数572人



住所 さいたま市岩槻区仲町1-17-3
 電話 048-756-0515
 FAX 048-758-7487
 メール ota-e@saitama-city.ed.jp
 Web https://ota-e.saitama-city.ed.jp



「ありがとう」「さようなら」

校長 田波 巨士

吹く風が温かくなり、春の陽気を感じられるようになってきました。校庭の桜の蕾が赤みを帯びてきて、まもなく開花を迎えそうです。

3月には、6年生巣立ちの会、6年生を送る会がありました。6年生巣立ちの会では、6年生が主体となり、太田小学校での成長の過程を劇にして発表してくれました。自分たちでセリフや動きを考え、小道具等も作成しました。小学校で学んだ経験を生かし、仲間と協力して色々なことができるようになった姿を見せてくれました。

6年生を送る会では、1～5年生がそれぞれに出し物を発表し、6年生にたくさんの感謝の気持ちを伝えました。6年生は、各学年の歌やダンス、劇などの発表を見て、うれしそうな笑顔で、一緒に歌ったり手拍子をしたりしていました。また、全校児童が、6年生の発表に対して、手振りや手拍子をしながら応援している様子に心がとても温かくなりました。



そして、3月22日（金）には、卒業式が行われました。
卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡しましたが、みんな大きな声で返事をして、堂々とした態度で大変立派でした。証書を受け取る際、力強く輝いた卒業生の眼差しに、中学校でもがんばりたいという決意を感じることができました。

これらの卒業に係る多くの行事の中で、在校生は卒業生に、卒業生は在校生や友達、保護者、先生に多くの「ありがとう」「さようなら」を伝えていました。映画監督の故・大林宣彦さん（代表作「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」の尾道三部作等）の印象的な言葉があります。

「出会い、別れていったものたちこそが、ぼくの人生のすべてであるといってもいい。ぼくの映画の中でいつも使われる別れの言葉は、「ありがとう」「ごめんなさい」「さようなら」である。「ありがとう」とは、二人を出会わせてくれた運命と、ぼくに出会ってくれたあなたへの感謝。「ごめんなさい」はそのあなたにもらったものの大きさに対して、ぼくがあげることのできなかった多くの事についての申し訳なさ。そして最後には、礼儀正しく「さようなら」。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ愛を知る。

子どもたちは、これからの人生でたくさんの人と出会うことでしょう。時代の変化と共に、コミュニケーションツールや場面、方法などの多様化に伴い、様々な出会い方や関わり方が生まれました。ですが、人と人とのつながりには「心」や「思い」があります。子どもも大人もですが、これからの新しい時代を生きていく上で、本気で考えないといけないことは、対面であろうが、ネットの向こうであろうが、心がある人間がいるのだということです。人に優しい言葉をかけてもらったり、手伝ってもらったりしたら「ありがとう」を言う。人に迷惑をかけてしまったら「ごめんなさい」を言う。そして、相手に礼儀正しく接する。当たり前のことですが、素直に言葉に出すのが難しい……。太田小学校では、学校教育目標には「思いやりのある子」、太田小の4つの宝には「思いやり上手」を掲げています。本校の教育活動を通して、人と人とのつながりを大切にできる人に育ててほしいと願っています。

結びにあたり、皆様のおかげで今年度の教育活動を終えることができます。教職員一同、お子様の健やかな成長を願って精一杯教育活動を行って参りました。行き届かぬところも多々あったかと思いますが、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。令和6年度も何卒よろしくお願い申し上げます。